



2010年度 年次報告書



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)



JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)

〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-63-302
TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486
FAX. 03-3440-4447
E-Mail. info@jiyd.org
URL. www.jiyd.org



就任ご挨拶

青少年育成支援フォーラムの創設時から理事長として事業を率い、活動の発展を見守ってこられた守隨武雄前理事長のあとを受けて、2011年4月から理事長に就任いたしました。日本の子供たちの健全な成長を願い、そのために「ライフスキル教育」の普及を図るといふ当フォーラムの意義ある活動をさらに発展させるため、微力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い致します。普及活動のパートナーであるライオンズクラブの皆さまをはじめ、全国各地の教育関係者や個人会員、法人会員の皆さま方には、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

だれもが子供のすこやかな成長を願う中で、学校教育や家庭でのしつけのあり方、地域社会の変化など日本の子供を取り巻く環境にはさまざまな課題があることも明らかになっております。とくに、それぞれの子供がもつ感性や多様な個性を尊重し、一人の人間としての自立した判断力やコミュニケーション能力をつけるといった点で、もっとなすべきことがあるはずだと考えている親や教育関係者は多いのではないのでしょうか。Lions Quest「思春期のライフスキル教育」は、まさにそのためにあるプログラムだと信じます。

お陰さまで昨年はワークショップを107回開き、約2700人が受講するなど、当フォーラムの活動は全国に広がりつつあります。とくに教室での実践につながる可能性の高い校内型ワークショップが大幅に増えていることが特筆されます。2011年の活動計画では、こうした状況を踏まえ、普及活動の「深化」を目指したいと考えます。ワークショップが先生方にどのようなインパクトを与え、教室での実践の結果どういう効果が表れたか、といった点をアンケート調査などによって追跡し、今後の活動の充実につなげて行きたいと考えております。皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

理事長 野村 彰男
2011年4月吉日

退任ご挨拶

この度、理事長の職を2011年3月を以って退任いたしました。

顧みますれば、団体設立当初の2002年6月より今日まで約9年間の長きに渡り、理事長を務めさせていただきました。ライフスキル教育の普及は一民間団体が担うには身に余る事業とは認識しながらも、日本の教育現場に求められているものとの信念のもと、手探りの状態から取り組んでまいりました。今日では、ライオンズクラブ組織とのパートナーシップのもと、全国的な普及活動を展開するに至り、感慨を深くいたしております。これも、多くの皆様のご理解とご支援、ご尽力の賜物と存じます。

今後の普及活動は、小学生版教材の開発といったプログラムの拡大と並行して、授業実施率の向上や効果の測定など「深化」が求められています。後任の野村理事長は、長きに渡り報道関係に従事されたご経験を通じて、国際的な視野・経験・知見を持ち、団体設立当初より理事として共に歩んでこられました。同氏は、グローバル化による変化の激しい社会を青少年が自らの力で歩いていくことがますます求められる中、世界的にも認知されているライフスキル教育普及の「深化」を託す方として、適任と考えております。

最後になりますが、在任中に多くの皆様より頂戴しました温かいご理解とご支援に厚く御礼を申し上げます。今後は名誉理事として、陰ながら見守ってまいる所存です。

今後とも、青少年育成支援フォーラムの活動に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

名誉理事 守隨 武雄
2011年4月吉日

VISION

すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

- 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
- 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
- 心身ともに健康な生活習慣
- 人のためになることをする機会
- 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

●支援者・協力者

●助成：
ライオンズクラブ国際財団



●寄付：
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会



トヨタエルアンドエフ東京株式会社



ダイドードリンコ株式会社



●協力：
日本財団



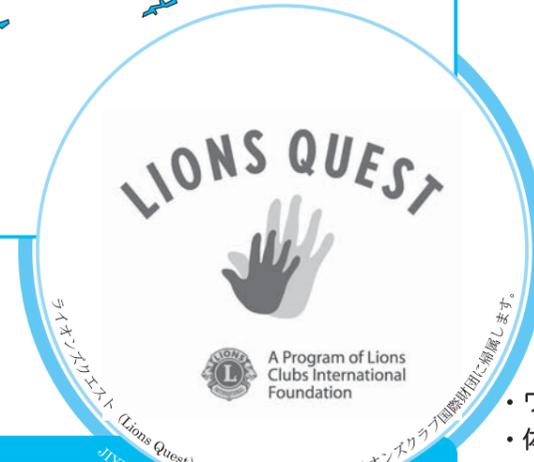
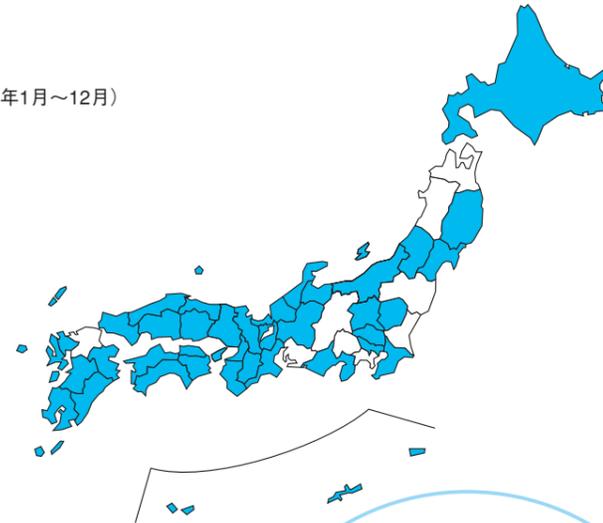
ライオンズクラブ
International Youth Foundation (IYF)
IYF Global Partner Network
Lions Quest International Network

●事業協働

ライオンズクラブ国際協会

<LCIF四大交付金事業実施地域> (2010年1月~12月)

- ・330-A地区 東京都
- ・330-C地区 埼玉県
- ・331-A地区 北海道 (中央)
- ・331-B地区 北海道 (道北・道東)
- ・331-C地区 北海道 (道南)
- ・332-B地区 岩手県
- ・332-C地区 宮城県
- ・332-E地区 山形県
- ・333-A地区 新潟県
- ・333-B地区 栃木県
- ・333-C地区 千葉県
- ・333-D地区 群馬県
- ・334-B地区 岐阜県・三重県
- ・334-C地区 静岡県
- ・334-D地区 富山県・石川県・福井県
- ・335-A地区 兵庫県 (東)
- ・335-B地区 大阪府・和歌山県
- ・335-C地区 滋賀県・京都府・奈良県
- ・335-D地区 兵庫県 (西)
- ・336-A地区 徳島県・高知県・香川県・愛媛県
- ・336-B地区 鳥取県・岡山県
- ・336-C地区 広島県
- ・336-D地区 島根県・山口県
- ・337-B地区 大分県・宮崎県
- ・337-C地区 佐賀県・長崎県
- ・337-D地区 鹿児島県・沖縄県
- ・337-E地区 熊本県



助成申請・報告
説明・体験会
相談対応

企画提案
助成申請
報告

助成金
寄付金

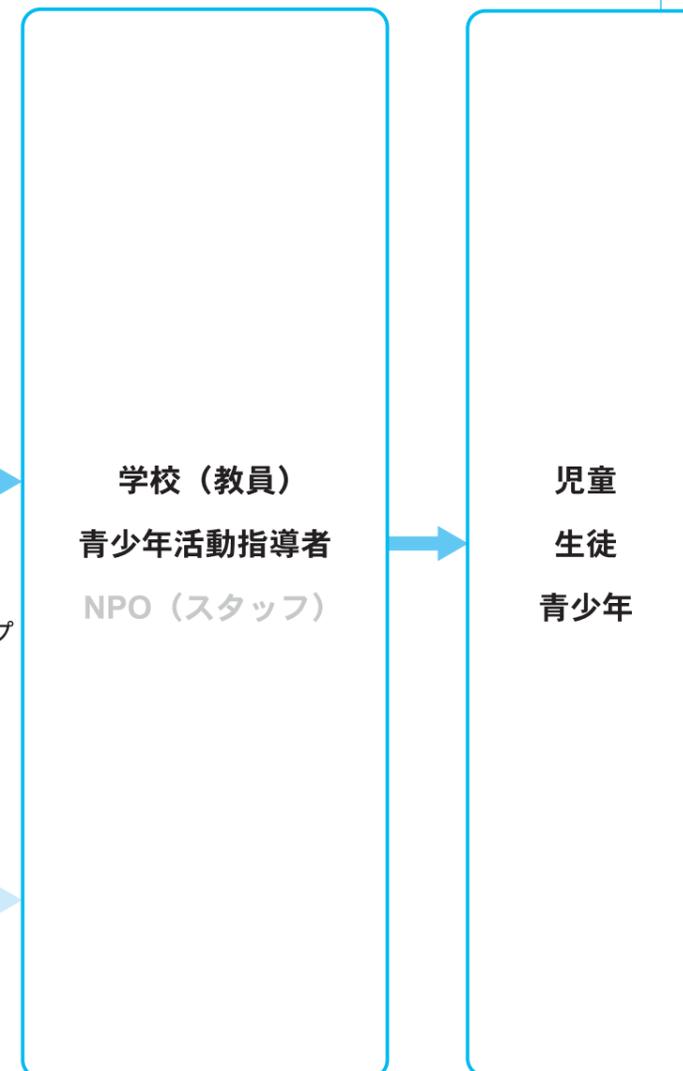
**ライフスキル教育
普及事業**
青少年活動
支援事業
(休止中)

●会員 (2010年12月末日現在)

- 個人会員：75名
- 法人会員：2社
学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校
キッコマン株式会社



私たち、NPO法人 青少年育成支援フォーラム (JIYD) は、
青少年の健やかな成長に役立つ活動やプログラムを広げていく、
そのために青少年の育成に係わる大人や組織を支援しています。



- ・ワークショップ
- ・体験会
- ・出張授業
- ・相談対応
- ・教材開発
- ・実施評価

本事業へのご支援

- ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会様より、東京でのワークショップ開催(2回)と、説明員研修会の開催、評価事業の実施をご支援いただきました。
- ダイドードリンコ株式会社様より、飲料自動販売機の売り上げの一部をご寄付いただきました。
- 日本財団様より、東京のワークショップ(1回)の会場を無償でご提供いただきました。

JLYDでは、2010年より、全校規模でライオンズクエスト・プログラムを導入しているモデル校を対象としたプログラムの効果を検証する「プログラム評価」を開始しました。この評価事業をご監修いただいている上智大学総合人間科学部心理学科教授の荻野美佐子先生に、「自己の発達とライフスキル」をテーマにご寄稿いただきました。

自己の発達とライフスキル

上智大学総合人間科学部心理学科 荻野美佐子

日本の子どもたちの自尊心（自尊感情）は低いとよく指摘されます。比較的最近の国際比較調査（2008年調査）でも、日本の中学生の自己認識について、「自分はダメな人間だと思う」に「とてもそう思う」と答えた割合は20.3%で、米国の4.7%、中国の3.4%、韓国の7.9%に比べて高いことが注目されます（図）。これは今に始まったことではなく、1980年代の国際比較調査でも同様の結果が出ています。これはどうしてなのでしょう。この問題を考える前に、自尊心または自己認識の発達について整理しました。

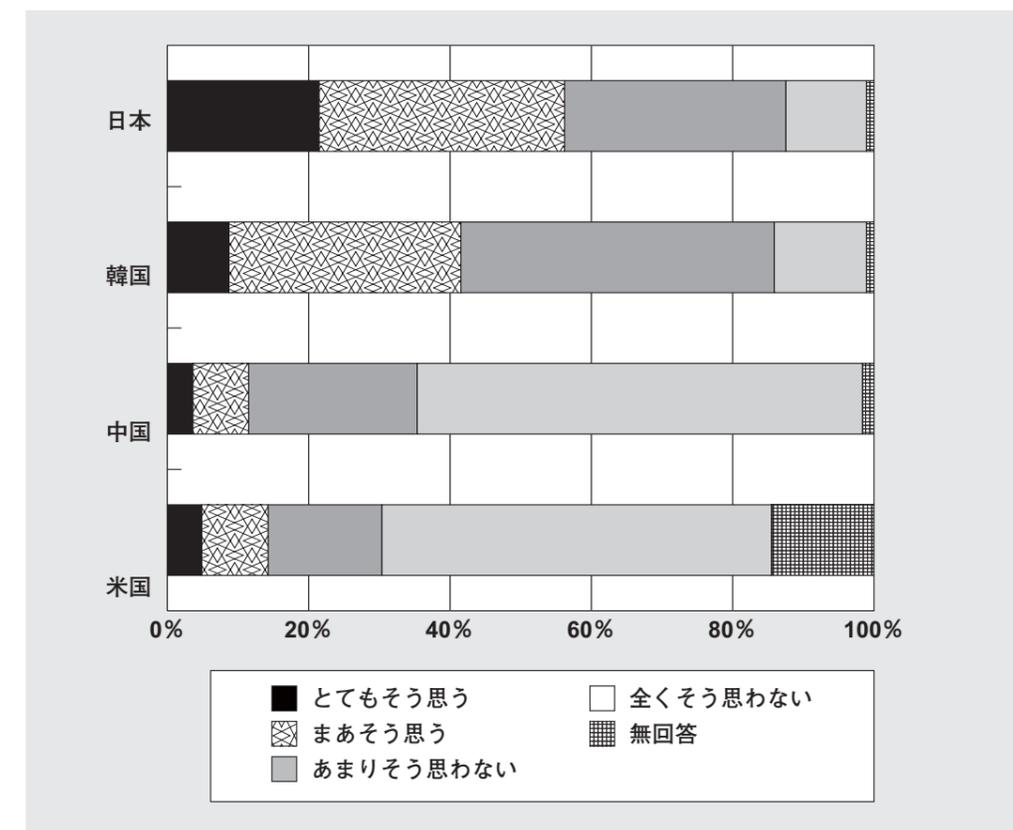
生まれたばかりの子どもは「自己」という認識そのものが成立していません。自分の身体を自己と捉え、自分がどういう属性をもち、どのような存在として捉えられるのかについては、およそ2歳頃から認識され始めます。この自己の認識には、自己を主張する行動などに表れる“自分が”という主体性の認識と、恥ずかしさや照れに見られるような外からの目で自己を捉える“自分を”という客体性の認識の両方が発達していく必要があります。そのような自己は時には肥大化し、「自分は何でもできる」といった極端な有能感と、「自分は何もできない」といった自己の無力さを感じる両極の中で揺れ動きつつ、等身大の「自分」を見つけていくのが、青年期までの子どもの自己の発達の重要な課題の一つと考えます。

児童期（小学生）までの自己認識やそれに伴う自己への感情は、周囲の人間関係の中で育まれ、他者の目を鏡とした自己認識です。守られた人間関係の中で育っている子どもは、自分が周囲に受容され、受容されるに値する自分であると認識していることが多いものです。しかし、小学校高学年頃から、他者の目といった鏡だけでなく、自分の中にも自分を見つめる目を持ち始めることで、そうした受容感に揺らぎがでてきます。揺らいだ自己感にどこで折り合いをつけていくのかは、中学生頃の思春期の子どもが取り組むべき重要な課題の一つです。

中学生の時期のライフスキル教育の目的の一つは、このような他者の目と自己の内的な目を意識し、それらについて、それぞれが自分なりの折り合いを見つけていくことを手助けすることでしょう。そして、認識面での育ちを支援するだけでなく、自分を大切にすることがイコールすべての人を大切にすることであること、それを実行することへ結びつけるような営みを促すことにあるのだと言えます。

ライオンズクエストが行っているライフスキル教育の中で、このような子どもたちの自己の成長がどのように図られているのか、2010年度にプログラム評価の質問紙の作成を行い、プログラム実施中の学校の協力を得て、その結果をまとめているところです。詳細な結果は報告書を参照いただきたいと思います。

プログラムの実施が即子どもの自己認識にプラスの影響を与えるとは言えません。人の自己認識はそのような単純なものではないことに、意味があると考えます。国際比較調査における日本の子どもたちの自尊心の低さをどう解釈するのかは、単純には言い切れませんが、一つには、自己の内的な目の育ちの影響も考えるべきだと思います。自己認識の発達は、一つの方向に向かって進むものではありません。自分のことをより深く捉えようとすることは、自分についていい面のみならず、悪い面も両方見ることができるようになること。物事には必ず、表裏の両面があり、そうしたことをバランスよく見ることができることが大事であり、日本の子どもたちが持っている多面性への意識をもう少し積極的に評価すべきかもしれません。このような側面は、ライフスキル教育で目指すことでもあります。つまり多様な視点が取れるようになること（自分の多様な側面、他者と自分の複数の視点のつき合わせ、など）が重要であり、それを促すアプローチに意味があると考えます。



図「自分はダメな人間だと思う」に対する中学生の回答（日本青少年研究所,2009）

2010年度事業報告

特に2006年以降、普及活動に取り組む地域が急速に増え、ワークショップの開催数をはじめ普及活動の規模拡大が続いてきました。2010年はこの規模を維持しながらも、より効果的な普及方法を模索し、またその効果をさまざまな角度から検証する評価活動を充実させた、「深化」の年でした。

● プログラムのワークショップが教育大学のカリキュラムに採用

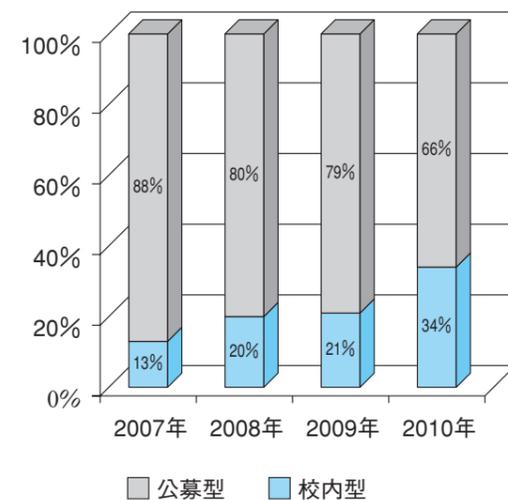


今年度からの新しい試みとして、京都教育大学（京都府京都市）の学部生、大学院生、研究生を対象とする5回シリーズのワークショップを10月～11月にかけて開催し、20名が修了しました。同大学では、2011年度より自由選択科目としてライオンズクエストプログラムワークショップが採用されます。ワークショップが教員研修としても意義のあるものとして、認められつつあります。

● 校内型ワークショップの比率が急増、全体の3分の1に

教育関係者を対象とした2日間のワークショップを全国で107回開催し、2,678名が修了しました。ワークショップのうち、特定の学校または特定の校区を対象とする校内型ワークショップが36回となり、ワークショップ全体の34%を占めました。

校内型は、ワークショップ終了後、学校で組織的にプログラムが実践される可能性が高いため、それだけライフスキル教育が子どもたちに届く近道となります。プログラムを全校で取り組むモデル校は、2010年中に33校から44校と、11校増えました。



ワークショップ回数に占める校内型の割合

★モデル校ちょっと拝見★



栃木県那須塩原市にある黒磯北中学校では、よりよい人間関係を築くための自尊心や社会的スキルの育成のため、2009年11月より各学年年間10時間の計画で全校でライオンズクエストプログラムを実施しています。

11月27日、生徒と地域のライオンズクラブのメンバー合同のボランティア活動が行われました。生徒会中心に活動を計画して、学区内の164本のカーブミラーを磨き、その後は一緒に楽しい昼食会。

子どもたちにとってはライフスキル学習の一環として、地域のライオンズメンバーにとっては地域での奉仕活動の一環として。ライオンズクエストプログラムは、学校と地域の橋渡しの役割も果たしています。

● 新教材が完成しました

現行のパイロット版から正式版となる日本語版教材の制作が完了し、2011年3月のワークショップより、使用を開始しています。英語版教材の第4版への改訂を反映させ新たな授業が加わるとともに、すべての授業が、先生方が使いやすい指導案形式となっています。またライフスキルの学習を他の教科や地域活動など学校教育の他の場面にも広げるための活動案が加わり、より効果的なライフスキル教育をご提案しています。



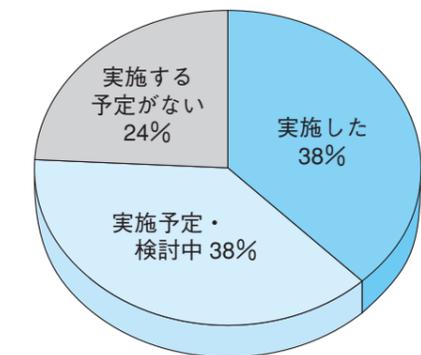
● ワorkshop受講後のフォローアップ調査を行いました

一部のワークショップ修了者を対象に授業を実施しているかや、指導力への影響などを尋ねるアンケート調査を行いました。回答者のうち、ワークショップ後に授業を行った方は38%、実施予定・検討中は38%、実施の予定なしは24%でした。学校で組織的にプログラムを実施しようとするときの課題で多く挙げられたのは「授業時間の確保」「教員間の合意」でした。すでに組織的な実施をしているモデル校ではどのようにこうした課題を克服したのかを調査してワークショップ参加者に共有するなど、今後ワークショップがプログラム実践につながるようなご支援をしていく必要性を感じる結果となりました。

またこの調査報告書をライオンズクラブとも共有し、ワークショップ受講後の調査を今後ライオンズクラブが各地で実施して普及活動に活用できるよう、質問票や実施方法を整備していきます。

調査概要：

- 調査実施時期：2010年11～12月
- 調査対象者：2009年と2010年の7-8月に開催の計63回のワークショップに参加した教員1,383名
- 有効回答数：416名



ワークショップ受講後の授業実施割合

● その他

- ◆プログラム評価事業：プログラムの効果測定のため、実践校の生徒・先生方への質問紙調査を行いました。この事業は2013年までの3ヶ年計画で、2011年7月には中間報告がまとまる予定です。
- ◆ライオンズクラブとの連携：LCIF四大交付金事業として組織的にプログラムの普及活動に取り組む地区は、2010年末現在27地区となりました。JIYDよりこれらの地区の事業申請・継続にかかわる提案やご支援を行いました。
- ◆フォローアップワークショップ：ワークショップ参加者にスキルアップや意見交換の場を提供するフォローアップワークショップを北海道、兵庫、熊本で4回開催し、70名が参加しました。
- ◆広報活動：セミナーを78回開催、教育関係者や保護者、ライオンズメンバーなど約3,400名が参加しました。

正味財産増減計算書

自2010年1月1日 至2010年12月31日

(単位：円)			
科 目	当期分	前期分	増 減
《Ⅰ一般正味財産増減の部》			
1 経常増減の部			
【経常収益】			
会費収入－個人	500,000	645,000	△ 145,000
法人	400,000	600,000	△ 200,000
	900,000	1,245,000	△ 345,000
事業収入－ライフスキル教育普及事業			
ワークショップ参加費収入	17,301,000	18,886,000	△ 1,585,000
その他：体験会謝礼等	2,982,790	4,103,041	△ 1,120,251
	20,283,790	22,989,041	△ 2,705,251
助成金収入－ライフスキル教育普及事業(※1)			
ライオンズクラブ国際財団	48,880,150	42,554,159	6,325,991
その他	4,991,627	4,311,077	680,550
	53,871,777	46,865,236	7,006,541
寄付金収入			
使途指定寄付金			
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会	3,500,000	3,000,000	500,000
その他	114,678	42,067	72,611
一般寄付金	85,000	181,000	△ 96,000
	3,699,678	3,223,067	476,611
その他収入			
受取利息	21,992	27,540	△ 5,548
雑収入	832,912	575,000	257,912
	854,904	602,540	252,364
経常収益合計	79,610,149	74,924,884	4,685,265
【経常費用】			
事業費			
(1) ライフスキル教育普及事業			
ワークショップの開催	41,042,923	37,030,895	4,012,028
フォローアップ・ワークショップの開催	733,475	186,316	547,159
普及・広報活動(※2)	6,946,695	6,664,049	282,646
教材開発・改定事業	2,889,218	0	2,889,218
評価事業	1,585,698	0	1,585,698
事業運営費	7,357,932	4,110,590	3,247,342
認定講師養成事業	0	2,525,108	△ 2,525,108
	60,555,941	50,516,958	10,038,983
(2) 広報事業			
年報・会報の発行	336,861	274,803	62,058
ホームページの運営・管理	254,595	254,595	0
	591,456	529,398	62,058
事業費合計	61,147,397	51,046,356	10,101,041
管理費			
一般管理費			
人件費(※3)	6,669,612	4,070,643	2,598,969
通信費	323,498	349,536	△ 26,038
事務用消耗品費	280,810	379,969	△ 99,159
交通費	448,910	377,080	71,830
家賃・リース料	1,430,000	1,452,000	△ 22,000
支払報酬	295,222	321,472	△ 26,250
印刷費	7,415	17,969	△ 10,554
固定資産減価償却費	79,954	121,130	△ 41,176
その他(※4)	1,233,591	1,142,100	91,491
管理費合計	10,769,012	8,231,899	2,537,113
経常費用合計	71,916,409	59,278,255	12,638,154
当期経常増減額	7,693,740	15,646,629	△ 7,952,889
2 経常外増減の部			
【経常外収益】			
為替差益	67,679	0	67,679
【経常外費用】			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	67,679	0	67,679
一般正味財産期首残高	7,761,419	15,646,629	△ 7,885,210
一般正味財産期末残高	74,097,210	58,450,581	15,646,629
81,858,629	74,097,210	7,761,419	
《Ⅱ指定正味財産増減の部》			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
《Ⅲ正味財産期末残高》	81,858,629	74,097,210	7,761,419

- ※1. 「助成金収入－ライフスキル教育普及事業」の細目として、ライオンズクエスト国際財団のライオンズクエスト四大交付金事業に関わる助成金収入は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関わる助成金収入については「その他」と表記しています。
- ※2. 体験会等の開催費、モデル校支援活動費(学校訪問・相談対応)、資料請求対応費などが含まれます。
- ※3. 総務・経理に従事するスタッフの人件費です。ライフスキル事業に従事するスタッフの人件費は事業費に含まれます。
- ※4. 水道光熱費、広告宣伝費、会議費、会場費、図書資料費、保険料、租税公課(消費税含む)、諸会費、手数料、雑費が含まれます。

貸借対照表

2010年12月31日現在

(単位：円)			
科 目	当期分	前期分	増 減
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金	58,123,941	57,579,452	544,489
貯蔵品(※1)	2,606,257	2,066,165	540,092
前払費用	744,844	755,215	△ 10,371
未収入金(※2)	24,019,924	14,240,931	9,778,993
流動資産合計	85,494,966	74,641,763	10,853,203
【固定資産】			
(1) その他固定資産			
什器備品	112,989	192,943	△ 79,954
電話加入権	226,408	226,408	0
敷金	300,000	300,000	0
その他固定資産合計	639,397	719,351	△ 79,954
資産の部 合計	86,134,363	75,361,114	10,773,249
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金(※3)	3,318,851	303,557	3,015,294
前受金	240,000	188,000	52,000
預り金	234,083	225,147	8,936
未払消費税	482,800	547,200	△ 64,400
流動負債合計	4,275,734	1,263,904	3,011,830
【固定負債】			
固定負債合計	0	0	0
負債の部 合計	4,275,734	1,263,904	3,011,830
《Ⅲ正味財産の部》			
【一般正味財産】			
(うち基本財産への充当額)	81,858,629	74,097,210	7,761,419
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産の部 合計	81,858,629	74,097,210	7,761,419
負債及び正味財産の部 合計	86,134,363	75,361,114	10,773,249

※1. 教材、パンフレット、切手在庫高

※2. 助成金、ワークショップ参加費、ワークショップ参加キャンセル料、体験会経費、資料代

※3. 新教材制作費、給与手当、講師報酬、旅費交通費、通信費、消耗品費、荷造運賃

監査報告書

監 査 報 告 書	
2011年2月18日	
特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 理事長 守屋 武雄 殿	
公認会計士 小川 義人 	
私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2010年1月1日から2010年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。	
1. 収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表 2. 財産目録	
この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。	
監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び定款(寄付行為)に準拠し、かつ、前事業年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているものと認められた。	
よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2010年1月1日から2010年12月31日までの事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。	
特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士の規定により記載すべき利害関係はない。	
以 上	

2011年度事業計画

2011年は、体験会やワークショップの開催など、引きつづき、全国での普及活動を推進するとともに、ワークショップ参加者のプログラム実施を支援して、授業実施率の向上を目指していきます。

また、前年に引き続き普及活動のさまざまな側面への効果検証を行い、こうした評価活動をプログラムの広報からプログラムが児童・生徒に届くまでの一連の普及活動の中に組み込み、継続的に進める仕組みを作りたいと考えています。

ワークショップは受講者にどのような影響を与えているのか、プログラムの授業は子どもたちの役に立っているのか——普及活動の目標が達成されているかを確認し、さらにそのための課題を把握できこそ、普及活動が一巡します。2011年は、普及活動の質の深化を定着させる年にしたいと考えています。

授業実施率の向上・モデル校増設

- ワークショップ受講者のプログラム実践を支援します。
- 授業内容や年間計画についてのご相談に応じ、受講者が実践経験を共有しスキルアップするためのフォローアップワークショップを開催します。
- 校内型ワークショップを実施した学校の組織的なプログラム実施をサポートし、モデル校の増設を目指します。
- モデル校に対してアンケート調査を行い、組織的な実施の状況や、プログラム実践の課題となっている授業時間の確保や教員間の合意をどのように実現して組織的な実施に至ったか、成果や課題などを把握し、今後の支援内容の検討や、ワークショップ受講者への情報提供に役立てたいと考えています。

プログラムが児童・生徒に届くまで

ワークショップの開催

- 教育関係者を対象とした2日間のワークショップを100回開催します。2,500名の受講を想定しています。
- 校内型ワークショップの場合は、その後の学校全体での組織的・長期的な実践が期待されます。ライオンズクラブと協力し、校内型ワークショップの開催も推進していきます。

広報活動

- 学校・教育委員会など教育機関にプログラムの広報活動を行います。
- 全国各地のライオンズクラブが地域の教育関係者に働きかけ、体験会などを開催しています。
- JIYDはこうした場へご説明に伺ったり、資料をご提供したりします。



学校での授業実施



自尊心の高い
児童・生徒



ワークショップアンケート

ワークショップ終了時に、ワークショップ内容への理解度・満足度を伺うアンケートを行います。

ワークショップ評価 (受講後のフォローアップ調査)

ワークショップ受講者に対してアンケート調査を行い、ワークショップ後、実際にプログラムを活用してライフスキルの授業を行っているか、またどのようなことが課題となっており、どのような支援が求められているかなどを把握します。これらを活用してワークショップ後の受講者への支援を充実させ、授業実施率の向上を目指します。

プログラム評価

プログラムの普及活動の最大の目的は、プログラムの授業が子どもたちの力となることです。昨年よりご協力いただいている10校のプログラム実施校の生徒・先生方に対して引き続き質問紙調査を行い、プログラムが目標としているさまざまなスキルや能力、価値観が身に付いているかを検証します。2011年は調査の中間報告書をまとめ、ライオンズクラブや講師などの関係者と共有して、より効果的なワークショップや普及活動につなげていきたいと考えています。

評価活動

ライフスキル教育普及事業へのご支援のお願い

青少年育成支援フォーラムでは、一人でも多くの青少年にライフスキル教育を届けるために、法人・個人、多くの皆さまからのご支援をお願いしています。

●会員のご入会：

年会費：個人・5,000円（1口）～／法人・200,000円（1口）～

1年単位の年会費制です（入会金無し）。法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。会員の方へは年次報告書を通じて活動のご報告をします。

●寄付のお申込み：

会員としてのご支援の他に、寄付もお受け付けてしております。ご寄付は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。また、用途をライフスキル教育普及事業に限定したご寄付（ライフスキル教育普及事業支援寄付）もお受け付けています。具体的な用途の例としては、以下のものがあります。

- 体験会の開催費用：**学校・教育関係者や保護者を中心に、ライオンズクエストの内容をよりよく理解して頂くために、実際の学級での授業を疑似体験できる模擬授業などを含むプログラムの体験会を、要望に応じて、実施しています。
- ワークショップの開催費：**学級でライオンズクエストを実施できるようになるために、主に学校教職員を対象とする2日間のワークショップ（参加者25～30名前後）を開催しています。
- 参加費の支援：**2日間のワークショップへのモデル校の教職員の参加費を支援します。
- その他：**より使い易く・充実した教材の開発や研修会講師の養成等。

●お問合せ先：

会員入会・寄付のお申込みをご希望の場合は、下記までお問合わせください。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム（JIYD）

Tel. 03-3440-3373 Fax. 03-3440-4447 E-mail. info@jiyd.org

2010年度会員（2010年12月末日現在）

●法人：2社

学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校

キックコーマン株式会社（敬称略、五十音順）

●個人：75名

会田 隆雄	石原 典子	伊勢戸 敏信	井村 昭弥
植松 健	大久保 良平	岡田 恭孝	喜志 房雄
北山 宏	西園寺 裕夫	佐渡 弘	島田 佳宣
仲宗根 宗督	成瀬 健生	長谷川 一弘	松井 義之
水谷 隆夫	百田 勝彦	山田 礼子	湯浅 清文
吉岡 京一			（敬称略、五十音順）

2010年度寄付者（2010年度12月末日現在）

●法人：3社

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

ダイドードリンコ株式会社

トヨタエルアンドエフ東京株式会社（敬称略、五十音順）

●個人：9名

（上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご希望・ご承諾いただいた方のみ掲載しています。）

理事会（2011年4月1日現在）

理事長	野村 彰男	国際交流基金日米センター所長
副理事長	中雄 政幸	青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務（L.）
理事	栗田 収司	青少年育成支援フォーラム 事業推進担当
	見上 良也	ライオンズクラブ国際協会330-A地区 元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会330複合地区 元ガバナー協議会議長
		学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校 理事長
	西田 浩子	公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長
	小西 宗仁	ライオンズクラブ国際協会333-C地区 元地区ガバナー
		日本ライオンズ連絡事務所 管理委員
		船橋商工会議所 副会頭
		株式会社シティクリエート 代表取締役
	八畷 隆	ライオンズクラブ国際協会335-C地区 元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会335複合地区 元ガバナー協議会議長
		医療法人芳隆会 八畷医院 理事長
	佐渡 涼子	ライオンズクエスト認定上級講師
名誉理事	守随 武雄	松下電器産業株式会社 客員
	藤本 厚子	元幼稚園教諭
監事	渡辺 真一	ライオンズクラブ国際協会330-C地区 元地区ガバナー
		公認会計士

（L.＝ライオンズメンバー）（就任時期順、五十音順）

ライオンズクエスト認定講師（2011年4月1日現在）

佐渡 涼子（上級講師）

岡松 佐知子	（スクールカウンセラー）
北山 敏和	（元小学校校長）
篠田 康人	（小学校教諭）
嶋田 祐子	（元中学校教諭）
寺本 之人	（小学校教諭）
外川 澄子	（小学校校長）
	（五十音順）

発行者	中雄 政幸
発行所	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日	2011年5月1日
印刷	株式会社アネックス